

2020春闘交渉 会社の考え

本部は、3月6日、2020春闘交渉 会社の考えを行いました。以下、報告します。

「会社の考え」

今年度は、「JR貨物グループ中期経営計画2023」を掲げ、更なる成長と発展に向けた具体策を実行することとした。

会社の発展のためには、「社員一人ひとりの成長力が必要であり、社員の持つ能力と意欲を最大限に発揮させることが会社の持続的な発展につながる」として、「社員の主体的な行動と成長を促し、生き生きと働きがいを持って仕事ができる」、「きちんと真面目に働く社員が報われる」仕組みとするために新しい人事制度を導入した。

このように、JR貨物グループの持続的成長に向けて取り組んできたが、昨年9月から10月にかけて相次ぐ台風の接近・上陸により、大きな輸送障害が多発し、特に台風19号の上陸では、東北線、武蔵野線、中央線が長期にわたり不通となり、社員の皆さんの尽力により、トラックと船舶による代行輸送、迂回輸送を実施したものの、大幅な減収を余儀なくされた。

収入を挽回するため、他輸送モードにシフトしたお客様に対し、鉄道再利用の働きかけや、費用の精査を積極的に実施するなど、収支改善に取り組んできたが、下期に入ると個人消費の冷え込み、海外経済の動向等の影響を受けた輸出入の低迷などで景気は低迷し、さらに、新型コロナウイルスの影響で先行きが全く見えず、マイナスの影響が懸念される。

以上、中間決算では、鉄道事業は増収増益で黒字となったものの、1月期計画では鉄道事業の営業利益を通期見通しで△26億円と下方修正せざるを得ない状況となり、その下方修正した計画に対しても、2月を終えた時点で△2,8億円と大変厳しい状況となっている。この間、貴組合の主張を真摯に受け止め社内議論し、会社としてはグループの持続的な成長と一層の利益拡大を目指すためには、本業である鉄道事業は黒字を維持し、盤石の事業基盤を確立し、関連事業においても利益を出し、安定した経常利益を出せる体質にしていかなければならない。

以上を踏まえ、会社の考えとしては「昇給額表に記載している等級及び評価に応じた昇給は実施するものの、ベースアップについては現時点難しい」である。

組合・会社が厳しい状況は理解するが、2019年度通期見通しを68億円としており、ベアを実施する体力は十分にあり、3年連続ベア実施の期待は大きい。日本全体がコロナウイルスの影響で沈んでおり、明るいニュースが何も無い中、今回の会社の考えを聞かされれば、気持ちがさらに沈み、会社に対する士気が下り、会社に与える影響は計りしれない。組合員のモチベーションアップ、優秀な人材確保、将来に渡り希望の持てる会社つくりのためにも、本日の会社の考えには到底納得出来ず、再考を強く求め、回答日には誠意ある回答をお願いしたい。

会社・貴労組の主張は承った。再度、社内で議論していきたい。

以上
